



第29回上田八木・金融政策サーベイ(2019年7月)の結果について

～全回答者(166先)の95%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。3か月先の金利予想では、2年利付国債金利、10年利付国債金利において前回に続き低下との見方。

2019年7月26日(金)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(166先)の95%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。なお、緩和の見方も増加(5%,2016年9月以来)。
- 3か月先の金利予想に関しては、総じて不変との見方が支配的。ただし、「2年利付国債」「10年利付国債」については、前回同様に低下方向の見方。
- 「出口開始時期」に関しては、前回同様「1年以上3年未満」「3年以上」と回答する先が拮抗している。

【調査の概要】

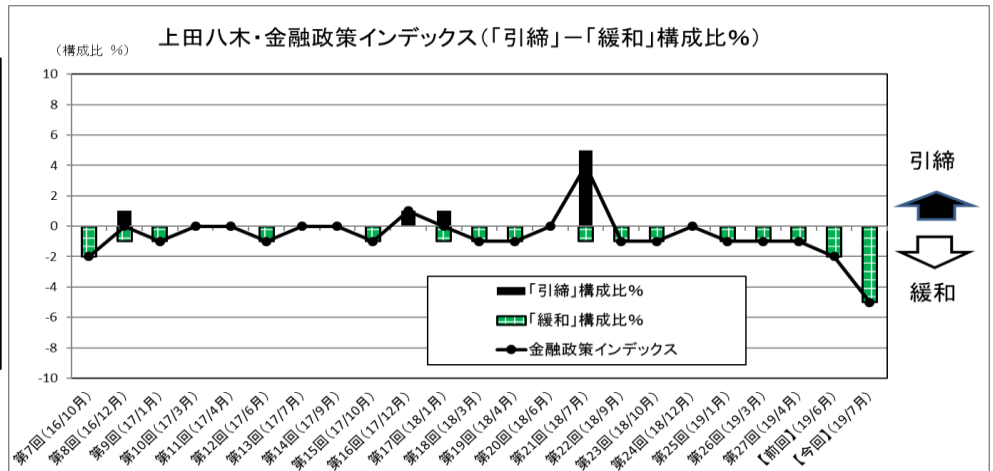
| | |
|------|---|
| 調査対象 | 弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(186先) |
| 調査内容 | 日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し |
| 調査方法 | 2019年7月23日～25日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施 |
| 回答率 | 89.2% (回答者数166先<Q1における回答者数>) |

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(7月29日～7月30日)における決定について

回答者の95%が「不変」の見方。「緩和」の見方は5%(2016年9月以来の水準)。「引締」は0%。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲5」(前回は▲2)であった。

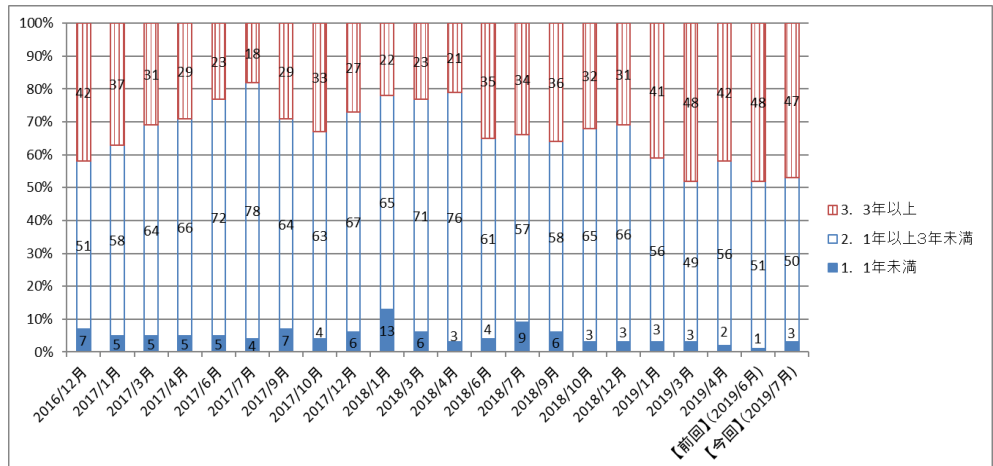


(ご参考)

【追加質問:Q5】

現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

1年以上3年未満と回答する先は50%(前回51%)、3年以上と回答する先も47%(前回48%)

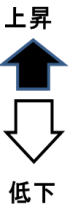
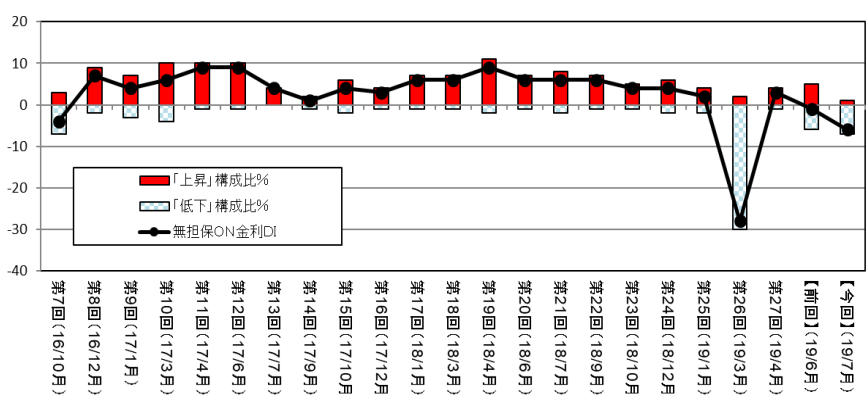


(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。7%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は1%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント(前回5%→今回1%)。「低下」とみる先は+1%ポイント(前回6%→今回7%)。「不変」とみる先は+3%ポイント(前回89%→今回92%)。

3か月先の無担保コールON金利(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

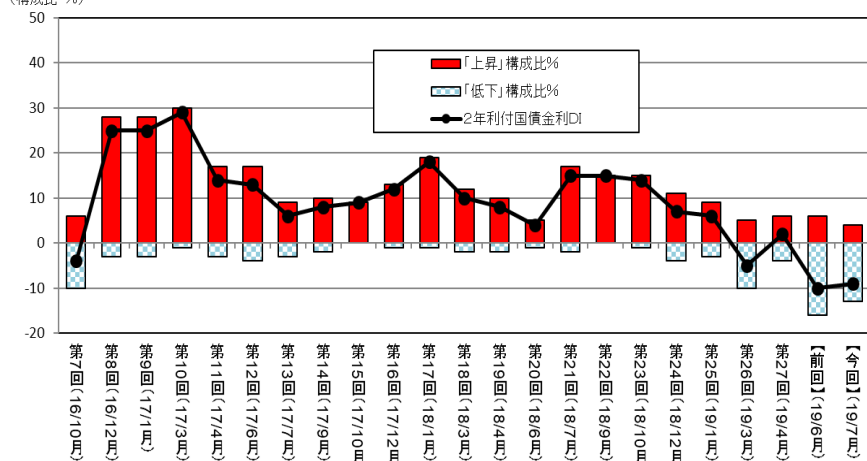
回答者全体の83%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者13%。「上昇」を予想した先は4%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先▲2%ポイント(前回6%→今回4%)

「低下」とみる先は▲3%ポイント(前回16%→今回13%)。

「不変」とみる先は+5%ポイント(前回78%→今回83%)。

3か月先の「2年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

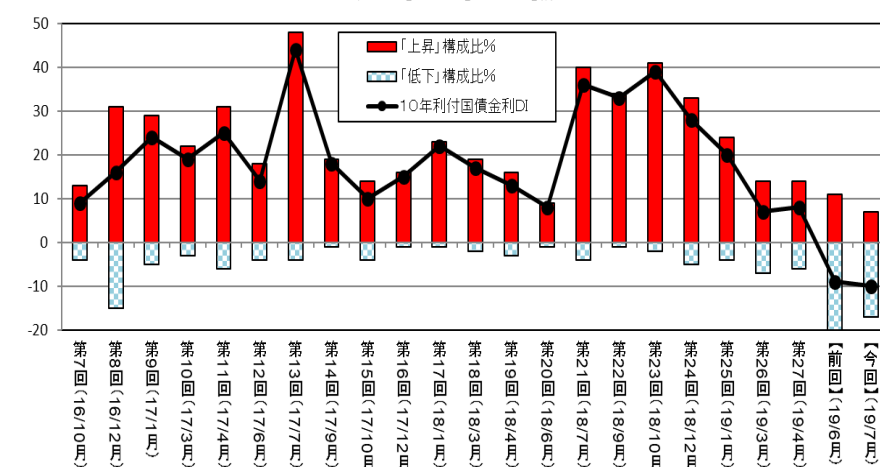
回答者全体の76%が「不変」を予想。17%が「低下」、「上昇」を予想した先は7%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント(前回11%→今回7%)。

「低下」とみる先は▲3%ポイント(前回20%→今回17%)。

「不変」とみる先は+7%ポイント(前回69%→今回76%)。

3か月先の「10年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)



【本調査に関する照会先】 企画部 島本、保元 (電話 03-3272-0293)



第29回上田八木・金融政策サーベイ(2019年7月)

発表日：2019年7月26日（金）14：00 上田八木短資株式会社

| | |
|-----|----------------|
| 調査日 | 2019年7月23日～25日 |
| 調査先 | 186先 |
| 回答率 | 89.2% |

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（7月29日～7月30日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

| | (今回) | (前回6月18日) | 変化幅 |
|----------------------------------|----------|-----------|-----|
| 緩和 | 5 (構成比%) | 2 | +3 |
| 不変 | 95 | 98 | ▲3 |
| 引締 | 0 | 0 | +0 |
| 上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%) | ▲5 | ▲2 | ▲3 |

(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

| | (今回) | (前回6月18日) | 変化幅 |
|----------|------|-----------|-----|
| 低下 | 7 | 6 | +1 |
| 不変 | 92 | 89 | +3 |
| 上昇 | 1 | 5 | ▲4 |
| 短期金利予想DI | ▲6 | ▲1 | ▲5 |

(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

| | (今回) | (前回6月18日) | 変化幅 |
|------------|------|-----------|-----|
| 低下 | 13 | 16 | ▲3 |
| 不変 | 83 | 78 | +5 |
| 上昇 | 4 | 6 | ▲2 |
| 2年国債金利予想DI | ▲9 | ▲10 | +1 |

(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

| | (今回) | (前回6月18日) | 変化幅 |
|-------------|------|-----------|-----|
| 低下 | 17 | 20 | ▲3 |
| 不変 | 76 | 69 | +7 |
| 上昇 | 7 | 11 | ▲4 |
| 10年国債金利予想DI | ▲10 | ▲9 | ▲1 |

(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメントを含む）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

| | (今回) | (前回6月18日) | 変化幅 |
|-------------|------|-----------|-----|
| 1. 1年未満 | 3% | 1% | +2% |
| 2. 1年以上3年未満 | 50% | 51% | ▲1% |
| 3. 3年以上 | 47% | 48% | ▲1% |